

【第 25 回】けんぽの保健師コラム～大腸がんを早期発見・早期治療するために必要なこと～

第 25 回の保健師コラムは田平が担当致します。

皆さま明けましておめでとうございます。

今年も役立つ健康情報をお伝えしますので宜しくお願い致します。

新年最初のテーマは「大腸がん」です。

日本人の死因で、もっとも多い病気はがんです。その中でも大腸がんは、臓器別の死亡者数で上位に入ります。大腸がんは食生活の欧米化、肥満、飲酒、喫煙などにより罹患者数は増加しています。特に 50 歳以上の増加が顕著で、最近では芸能人が大腸がんで亡くなるニュースが取り上げられる等、大腸がんは誰にでも罹患する可能性があります。

大腸がんは早期の段階では自覚症状はほとんどなく、気が付かないうちに重症化していたということが多くありますが、定期健康診断で行う便潜血検査で、死亡するリスクを約 30%減少させることが証明されています。(国立がん研究センターがん対策研究所：有効性評価に基づく大腸がん検診ガイドラインより)

便潜血検査では、2 日分の便を採取し、大腸がんやポリープなどからの微量で目には見えない出血（血液成分）が便に混じっていないかを調べます。



ヤマトグループ健康保険組合では、40 歳以上の被保険者（社員）を対象に大腸がん検診を毎年実施しています。

問診票と一緒に検体採取キットを配布しますので、説明書をよく読んで健診当日に必ず提出して下さい。また、健康診断結果を確認していない方は「便潜血検査」の項目を必ずご確認ください。

○陰性の方：便潜血検査は毎年受診する必要があります。来年度も受診しましょう。

○陽性の方：必ず精密検査を受診して下さい。(2 回採取したうち 1 回でも陽性となっていれば、大腸がんやポリープの可能性が高いと考えられます。必ず精密検査を受診しましょう。)

精密検査では通常「大腸内視鏡検査」を行います。精密検査を受けることで、出血の原因が判明し、大腸がんあるいは大腸ポリープ（大腸がんの前がん病変）を見つけることができます。大腸ポリープが見つかった場合には、その場で内視鏡によって取り除くことで同時に治療することができ、大腸がんとなるリスクを大幅に減らすことができます。



便潜血検査の陽性判定は痔による出血だと思われる方もいますが、痔などの出血はわずかで、むしろ大腸がんや大腸の他の病気の可能性がある為、自己判断は危険です。出血の原因は大腸がん以外にも様々ある為、出血の原因が何かを確かめるために精密検査（大腸内視鏡検査）を受ける必要があります。

大腸がんは早期に発見することで治療の選択肢も増え、約9割以上治ると言われています。しかし、便潜血検査が陽性と判断されてから、次の検診まで精密検査にいかないと、大腸がんが進行し治る可能性も低くなる為、便潜血検査が陽性になったらすみやかに精密検査（大腸内視鏡検査）を受けましょう。

大腸がんに限らず、健康診断を受けた際には結果を必ず見て、「要精密検査」の項目があった場合には早期に医療機関へ行くようにしましょう。

LINEで健保より健康に関する役立つ情報を発信していますので、ぜひご登録ください。

<https://lin.ee/3FD9CJS>

それでは次回も、お楽しみに♪